

運営費研究事業

認知症の人の地域生活を支えるデイサービスに関する研究～認知症デイの普及に向けて～
報告書【概要版】

小谷 恵子（認知症介護研究・研修東京センター）
佐々木 宰（認知症介護研究・研修東京センター）
渡邊 浩文（武蔵野大学、認知症介護研究・研修東京センター）
佐藤 信人（認知症介護研究・研修東京センター）

■目的

平成 29 年度研究をふまえ、認知症の人が地域生活を送るにあたり効果的な支援を提供できる認知症デイの普及に向けた方策を認知症介護指導者と共に検討し、具体的内容を提示することを目的とした。

■方法

- 1. 認知症デイ所属指導者 6 名およびセンター担当 4 名からなるワーキングを 2 回開催し、認知症デイ研究フォーラムの企画を検討
- 2. 認知症デイ研究フォーラムを 2 回開催
- 3. 指導者の認知症デイにおける活動広報スライド（実践事例報告）を作成
- 4. CD-TEP 評価アプローチ法を用いた効果的プログラムの検討

■結果

第 1 回フォーラム 21 名参加	9 月 29 日（土） 11:00～17:00	「認知症デイの現状と課題」 実践事例報告（3 事例）、グループワーク
第 2 回フォーラム 23 名参加	2 月 15 日（金） 11:00～17:00	「認知症デイの効果の可視化」 実践事例報告（3 事例）、ロジックモデルの検討

ワーキング及びフォーラムの議論をもとに CD-TEP 評価アプローチ法を用いた予備的效果モデル<図 1>及び業務計画<図 2>を作成した。

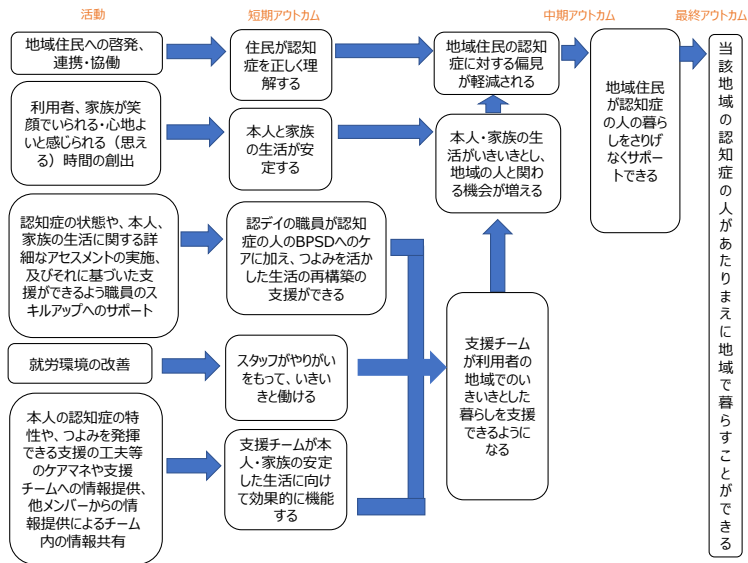


図 1 認知症デイの予備的效果モデル（ロジックモデル）

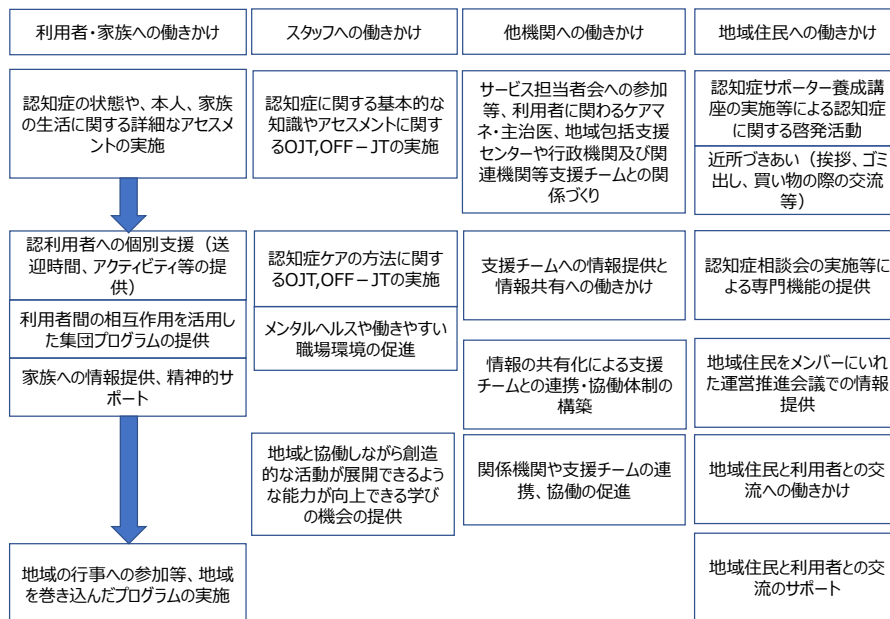


図 2 業務計画

認知症デイの取組は、「当該地域の認知症の人があたりまえに地域で暮らすことができる」という最終アウトカムのために行われている。そのためには、地域住民が認知症の人を受け入れるという基盤が必要であるため「地域住民が認知症の人の暮らしをさり気なくサポートできる」ことに対し、支援チームとして認知症デイがどのように取組んでいるかという視点で整理したところ、認知症の人の強みを生かし生活の再構築の支援をすること、働くスタッフがやりがいを持つこと、チームが効果的に機能することをアウトカムとした活動を示すことができた。その上で、具体的な働きかけについて、利用者・家族、スタッフ、他機関、地域住民と対象毎の枠組みにより業務計画＜図 2＞として示した。

■課題

今後は、家族の立場や認知症デイを紹介する介護支援専門員の立場からの意見を加え、現モデルの内容的妥当性を再度検討した上で、認知症デイが全国においてあまねく質の高い支援を実践できるように評価尺度の検討を含み活動レベルで提示し、予測的妥当性のあるモデルを開発していく必要がある。